

左京はあとふるプラン



ニュースレター 第3号

発行日 平成23年12月12日
発行者 左京区役所区民部総務課
電話 702-1021

左京区役所では「左京はあとふるプラン」(区基本計画)が目指す「自然を愛で、歴史を学び、文化を楽しむ」まちづくりを進める一環として、「次代の左京まちづくり会議」委員を中心に企画した、「自然を愛でるプロジェクト」を始動しています。

このたび「自然を愛でるプロジェクト」の第2弾として、11月23日(祝)に左京区北部の花脊・別所地域において「別所と花脊の自然を歩こう」を開催しましたのでご報告します!

当日は、京都市未来まちづくり100人委員会「山紫水明の京都」チームと協働し、「チマキザサ再生プロジェクト」で、都会で育んだササを山に返しました。

左京の自然を愛でるプロジェクト第2弾「別所と花脊の自然を歩こう」

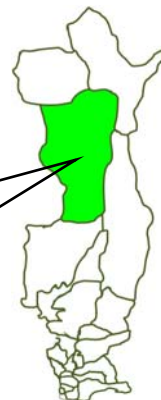
「別所と花脊の自然を歩こう」(概要)について

左京区南部地域などにお住いの市民約50名にご参加いただき、午前中は、2チームに分かれて別所の自然環境について学びながらの山歩きや、チマキザサの植樹を行いました。

午後からは、山村都市交流の森において、大学の研究者等による自然環境についてのお話や、末生流笹岡家元笹岡隆甫氏による山で採れた材料を用いたいけ花の実演と講話を行いました。

左京区全体図

花脊・別所



※「チマキザサ再生プロジェクト」とは?

京都市未来まちづくり100人委員会の「山紫水明の京都」チームが企画。

笹枯れと野生鹿の食害などで絶滅の危機に瀕する京都の花背の笹を、市民が守り育てる取組。チームの呼び掛けに応じて「里親」となったまちなかの市民が、木製プランターに植え替えた若い笹の苗を自宅の軒下やベランダ等で育ててきた。

今回、鹿の侵入を防ぐネットが整った山に、市民の育てた笹を植え戻すことになった。

「やま歩き(約2時間)」の様子

花脊峠から旧花脊峠を経由して旧道別れまで約2時間の山歩きを行いました。

山道では、猪落とし(昔、猪を捕獲するために掘られた穴)、自然林と人工林の対比、鹿による被害の様子など、実際に歩いてみないと分からない別所の山の様子を観察することができました。

また地元の方々や大学の研究者による詳しい解説を聞くことにより、一層理解を深めることができました。



チマキザサ植樹の様子

花脊峠から歩いて1時間ほどの滝谷山の尾根で植樹を行いました。

ササが鹿に食べられないように丈夫な二重のネットで囲った植樹場所に、1年間丹精込めて育てたササの植え替えを行いました。植え替えの際には、「森林植生復元実証プロジェクト」として、市林業振興課による指導を受けながら、ササにとって育ちやすい場所を選びました。



自然環境についてのお話の様子

次代の左京まちづくり会議の委員であり、京都大学地球環境学堂准教授である深町加津枝氏とボーイスカウト北星地区協議会会長で大文字山などの森林の保全に携わっている長谷川綾二氏から、人と自然との関わりの歴史や課題、里山の保全活動についてのお話がありました。



未生流笹岡家元笹岡隆甫氏によるいけ花の実演と講話

午前中の山歩きの際に採れたコハウチワカエデなどを用いたいけ花が行われました。いけ花の花器には、別所地域の民家で古くから使われていた火鉢が用いられ、この地域の自然と文化が融合した作品となりました。

また、実演後には、いけ花についての解説が行われ、いけ花は自然のあるがままの姿を写し取り、自然の移ろいを表現しているなど、華道や日本の文化についてわかりやすくお話いただきました。



参加者の声(抜粋)

- ・山歩きでは、山の環境の変化等について学びながら、季節を感じることができて良かった。
- ・今回植樹したチマキザサの1年後、10年後の様子を見守っていきたい。
- ・人と自然との関係や、保全活動の話等、理論と実践それぞれの立場からの話を聞くことができて良かった。
- ・山から採取したばかりの材料を使ったいけ花の実演は、とても斬新で感動した。また、改めて日本の文化、いけ花の素晴らしさに気付くことができた。